

日本臨床検査自動化学会科学技術委員会  
平成 27 年度第 1 回委員会議事録

1. 日時：平成 27 年 4 月 24 日（金）16:00～17:35
2. 場所：ホテルニューキャッスル（弘前市）  
（日本臨床検査自動化学会第 29 回春季セミナー会場）
3. 出席者（敬称略）：池田、大久保、澤部、山館、三村、神山、篠原、柏木、田中、谷本、石井、御子柴、村野、大澤、細萱  
欠席者（敬称略）：白井、芦原、片岡、松本、村本、山本、河口、松原、外園、高笠、桑

4. 配布資料

- 資料 1：平成 27 年度第 1 回科学技術委員会開催通知
- 資料 2：平成 26 年度第 2 回科学技術委員会議事録（案）
- 資料 3：平成 27 年度科学技術委員会委員名簿（案）
- 資料 4：マニュアル第 14 集原稿依頼状
- 資料 5：平成 26 年度科学技術セミナーアンケート結果
- 資料 6：学術委員会 HP 改定案
- 資料 7：IHE 臨床検査部門活動報告
- 資料 8：マニュアル第 15 集企画案  
臨床検査用自動分析装置の歴史（生化学・免疫検査）（机上配布）
- 資料 9：科学技術委員会委員の推薦と辞退（机上配布）

5. 議事：

議事に先立ち、今年度より新役員となった池田委員長、大久保副委員長、澤部事務局長より挨拶があった。

1) 報告事項

なし

2) 審議事項

(1) 平成 26 年度第 2 回委員会議事録の承認

資料 2 の前回議事録案が承認された。

(2) 平成 27 年委員会委員について

2 月に委員継続の意思を確認したところ、飯塚委員、市原委員より辞退の申し出があった。また、山本委員より新規委員として藤本一満先生、浅田高至先生、高崎匡先生の 3 名の推薦があった。現行の委員とともに、新規・辞退委員を含め承認された。ただし、若い先生は委員会・セミナーの出席に職場や上長の理解が必要であるので、池田委員長が確認することとなった。当委員会より理事会に上申し、最終決定となる。

(3) IHE 臨床検査部門活動報告

大久保副委員長より、資料に基づいて IHE 臨床検査部門活動の報告があった。山館委員（学会理事）より、日本 IHE 協会から自動化学会が会員になって欲しい旨の要望があるが、会費が高くメリットもはっきりしないため結論がでていないことが報告された。当委員会としても、引き続き様子を見る形で現状通りの参加形式を続けることとなった。

#### （４）今後の委員会活動について

今後の委員会活動について、大久保副委員長より配布資料を基に説明があり、その後審議された。自動分析装置の普及から 30 年程たち、記録を残しておくことに意義があることや、検査に携わっている若い検査技師の底上げにも役立つことから、企画案は基本的に了承された。

ただし、各メーカー委員から、「カタログスペックや概論は書けるがノウハウ的なものは書けない」、「各種技術を分担執筆しても他メーカーのことは書き難い」、「NG の事項が多く、自社の特徴をどこまで公表できるか悩む」等の懸念が指摘された。

今後、公開可能なユーザー教育向けの資料やテキストを企業委員に提供していただき、整理したうえで次回委員会までに報告する、また、逐時メールでも相談していくことが了承された。資料の送付先は大久保委員宛となった。

#### （５）マニュアル第 14 集企画と今年度のセミナーについて

大澤アドバイザーから、第 14 集企画「免疫化学検査の異常データの解釈と対応の仕方」について、進捗状況の報告があった。現在、学術広告社での原稿チェックの段階であり、5 月にゲラ刷りから著者校正に進むと思われる。ゲラ刷りができた段階で各委員へメール等で配信するのでご意見をお願いしたい。各メーカー原稿はコマーシャルが強くないように配慮した。

科学技術セミナーは時間の制約があるので、メーカーは含めずユーザーのみの 4 名とする。また、装置のことも若干盛り込んでいただく。

#### （６）ホームページの改訂について

資料が POC 技術委員会のものであった。メールにて再配信するのでチェックをお願いしたい。

#### （７）その他

当委員会は通常年に 2 回開催されている（4 月春期セミナー、10 月本大会）。春期セミナー前に、委員長・副委員長・幹事で事前打ち合わせを行いたいので、可能な範囲でお願いしたい（2 月の生物試料分析科学会等）。

免疫関連企業として、アボット社にも委員に入っていただくこととした。

#### 3) 次回の開催予定

次回は 2015 年度大会時（横浜）の 10 月 8 日に委員会とセミナーを予定している。調整のうえ追って連絡する。

（記録：澤部）